令和4年度第2回国立市保健センター運営審議会 記録（要約）

日 時	令和4年12月23日（金） 午後1時15分から午後2時05分まで
場 所	国立市保健センター 1階 指導室
出席委員	7名 行定委員、佐藤委員、下平委員、西山委員、安江委員、 小鷹委員、関田委員
欠席委員	2名 高柳委員、辛島委員
傍 聴	0名
事 務 局	10名 葛原部長、橋本課長、高木係長、増田主査、矢吹主査、 松葉部長、前田課長、長野係長、安藤主査、佐藤主任
議 題	(1) 令和3年度保健センター事業・子育て支援課事業決算について (2) 新型コロナウイルス感染症について (3) その他

令和4年第2回 国立市保健センター運営審議会

【行定会長】 定刻前ですが、皆様お揃いになりましたので令和4年度第2回国立市保健センター運営審議会を開催いたします。なお、高柳委員、辛島委員から本日の審議会について欠席の連絡を受けております。それでは事務局から連絡事項をお願いいたします。

【葛原部長】 この度、令和4年7月に組織改正がありましたのでここで報告いたします。これまで健康福祉部健康増進課保健センターでしたが、課名が健康まちづくり戦略室となり、係も健康まちづくり戦略推進担当と保健センターの2係となりました。健康まちづくり戦略推進担当は室長である橋本と管理栄養士である主任職員、保健センターは高木係長、矢吹主査、増田主査他5名の職員体制となっております。今回課名となりました「健康まちづくり戦略」につきましては、議題（3）その他で橋本室長より説明させていただきますのでよろしくをお願いいたします。また、本日は大川健康福祉部長が欠席です。よろしくをお願いいたします。

【橋本室長】 つづきまして配布資料の確認をお願いいたします。本日の資料は、委員の皆様へ事前送付いたしました資料、そして本日机上配布いたしました資料になります。右上にNo.3と書いてある資料から本日配布させていただいた資料になります。そしてナンバーはありませんが参考資料ということで、

ホームページから掲載しました「新型コロナウイルス感染症を疑う症状がある市民の方へ（抗原キットの配布）」と「国立市健康まちづくり戦略基本方針（骨子案）」となります。過不足がありましたらお知らせください。

【行定会長】 資料はよろしいでしょうか。それでは議題に入ります。議題（１）令和３年度保健センター事業・子育て支援課事業決算について事務局から説明をお願いします。

【高木係長】 私から資料No.1 令和２年度・３年度保健センター事業事務事業別歳出決算一覧表（一般会計）に基づいて説明をいたします。資料No.1をご覧ください。令和３年度につきましては令和２年度と比較して、トータルで32,264,726円の減額となっております。この中で主なものを上げますと2予防費（１）高齢者予防接種関連経費の34,751,673円の減、同じく2予防費（９）新型インフルエンザ対策事業費の15,861,981円の減が上げられます。令和３年度高齢者予防接種関連経費の減の要因としては、令和２年度は季節性インフルエンザ予防接種費用の自己負担分を都が負担し、本人負担が無料となったことで接種者が増えましたが、令和３年度は都の負担がなくなり接種者の自己負担分が発生することになりました。結果的に令和２年度と比較すると接種者の減につながって支出の減になったことと考えられます。続きまして新型インフルエンザ対策事業費につきましては、令和３年度から予算科目名を感染症等対策事業費に変更して予算執行しております。こちらの事業費の減の要因としましては、令和２年度に地方創生交付金事業として市内医療保健機関へ支援給付の支出がありました。しかし、令和３年度には実施がなかったこと、そして令和２年度から実施しておりましたPCR検査体制支援事業が令和３年度の途中で終了し、予定よりも支出が減になったこと等で全体として支出が減になったものと考えております。以上です。

【長野係長】 続きまして、子育て支援課の決算について説明いたします。資料No.2 令和２年度・３年度子育て支援課事業事務事業別歳出決算一覧表（一般会計）をご覧ください。まず、民生費１児童福祉総務費（１）子どもの発達総合支援事業嘱託員報酬ですが、こちらは令和２年度から嘱託員が会計年度任用職員に移行したことで今現在は予算科目はなくなっています。更に令和３年度から会計年度任用報酬の予算科目を2子どもの発達支援費（１）子どもの発達総合支援事業会計年度任用職員報酬等と衛生費１保健衛生総務費（１）子ども保健事業会計年度任用職員報酬にまとめております。このため令和２年度の合計が26,934,438円となり、増減額が1,376,361円の増になっています。次に主に増減額が大きなところについて説明いたします。民生費2子どもの発達支援費（３）児童発達支援センター運営支援事業費が約620万円増加しておりますが、これは令和２年度の途中からセンターが開設したことに対して、令和３年度は年度当初から運営していることによるものです。事業の支出の内容はセンター運営の事業費に対する市からの補助金になっており、大元は都からの補助金となっております。次に衛生費2予防費（２）母子保健

関連経費が令和3年度約700万円増加しております。これは2つ要因があり、1つは、1歳の子どもを持つ家庭に子育て応援ギフトを送るファーストバースデイサポート事業というものがあり、こちらで使用する子ども商品券の購入数の増加によるもので、約330万円増加しています。増加理由としては対象件数が増加したことと万一不足が起きないように令和2年度に比べて少し多めに購入しているためです。2つ目の要因としては、産後の母親のサポートを主な目的としている産後ケア事業の委託料が約465万円増加しております。これも令和2年度は1月から3か月間のみ実施しておりましたが、令和3年度は年度当初から通年通して実施したためです。次に同じく予防費(3)母子予防接種関連経費、こちらは約400万円減少しています。これは予防接種関連事業費自体非常に大きい予算規模になっており、400万円の増減としても特に前年度と比較してもそんなに増減がなかったのですが、考えられるのは、里帰り出産等定期予防接種費用助成金というものがあり、これは里帰りをした母親の子どもの定期予防接種を償還払いするという制度ですが、こちらが令和2年度に比べて令和3年度は約6割減っていて、推測になりますが令和2年からコロナ禍が始まり検診を控える傾向があったのかと思われま。令和3年度の出生数がそのため減少したのではないかと考えております。最後に諸支出金2国・都支出金返納金についてですが、こちらが1,200万円も増加しているのは、基本的に国や都の補助金・交付金の決定額に対して実績を報告することにより実績額を引き算して返納するお金が国・都支出金返納金になりますが、コロナ過によって令和2年度に実施予定だった事業が中止や縮小になり、支出予定だった事業費が未執行になったため交付金を返納することになったものです。以上です。

【行定会長】 ありがとうございます。只今の説明についてご質問のある方はお願いいたします。

【関田委員】 保健センター事業費の狂犬病予防事業の数字が変わってきているというのは、犬が少なくなったという事でしょうか。それとも予防接種をする方が少なくなったという事でしょうか。

【佐藤主任】 狂犬病予防事業の減額は郵便料が減ったことによるものです。本来次年度の注射案内は3月末に送付していたのですが、今年の3月末に送付の手続きをした後、郵便局から受付方法を変えとの連絡がありました。話し合いをしましたが3月末に送付できなかったため次年度の送付となり、令和3年度の郵便料の支払額が減になったことによります。

【行定会長】 他にありますか。ないようでしたら次の議題(2)新型コロナウイルス感染症について事務局からを説明をお願いします。

【増田主査】 新型コロナウイルス感染症について説明いたします。資料No.3をご覧ください。令和4年6月28日に開催いたしました第1回運営審議会以後7月・8月・9月を中心に第7波と呼ばれる感染拡大がみられました。国立市においても感染者が7月の合計が2,239人、8月は3,333人、9月

は1,236人、合計6,808人と感染の波がこれまでの中で最大となりました。グラフでは9月が1,230人となっておりますが正しくは1,236人となっております。9月の数字を訂正いたします。申し訳ございません。保健センターでは感染の疑いのある方や検査で陽性となった方からの検査や発熱外来の問合せ、療養についての困りごと、家庭での消毒方法、療養上の助言など様々な電話での相談がありました。また状態の変化など心配なケースには保健師が訪問することもありました。電話相談件数につきましては、7月は1,093件、8月は2,101件、9月は246件と合計2,440件となっております。インフルエンザと同時感染も危惧される第8波に備えて、東京都から頂いた検査キットを有効活用し、然るべき療養体制に入っていただき感染拡大を抑制することを目的に9月の終わりに市内の公立・私立の教育機関等に検査キットを希望数配布いたしました。また12月12日から国立市薬剤師会の協力が得られて、コロナの疑いがある有症状者に薬局での検査キットの配布及び相談指導、ハイリスクの方などへのパルスオキシメータの貸し出し、回収を実施していただいております。

【行定会長】 ありがとうございます。12月からの薬剤師会の支援事業について橋本室長お願いします。

【橋本室長】 12月12日から開始しております、先ほど申し上げましたように第7波を超える感染者数であるとか、インフルエンザ同時感染が危惧されているところです。第7波を振り返ると、検査キットについては東京都に電話をかけても中々つながらないということがあったり、本数も上限が決まっていたこともあって高齢者の方を中心に検査キットの入手が難しいという方もおりました。このことから、身近な薬局で入手することができないか、合わせて相談支援も行ってもらえないかということで薬剤師会にお話をしたところ、ご協力を得られることができて、国立市薬剤師会の10か所の薬局で行っていただいているところです。本日お越しいただいている会長の下平委員に大変ご協力を頂き、また自らポスターとか、書類関係も作っていただいて12日から少しずつ開始させていただいています。もう既に100件くらいは配布しているところです。

【行定会長】 ありがとうございます。質問がありましたらお願いします。

【小鷹委員】 最後に、既に100件出ているという話でしたが、全体数として配布予定数がなくなり次第終了という事でしょうか。大体どれぐらいを想定していますか。

【橋本室長】 3000キットを想定しています。

【下平委員】 今日3人ほどキットを配りました。原則的に電話をかけて頂いて、まず条件としては国立市民であることです。これは陰性証明には使えません。有料のものを買っていただくこととなります。この抗原キットは疑いのある方用になります。発熱とか喉が痛いとか、それと家族が陽性になっている方などです。本人確認として住所、年齢全部聞いて、ご本人の学生証、免許

証、保険証などで確認します。薬局の中に入ってくると他の方に感染する可能性があるため、近くの駐車場で受け渡しをします。キットに記載されている使い方や療養期間等をします。それからラベブリオなどの抗ウイルス薬が出ていて、その対応で今日も1件届けてきました。薬局に来てしまうと、職員もですが患者さんにも感染してしまう可能性があるため、ほぼお届けという感じになっています。ゾコーバというシオノギの内服薬ももう少しでわれわれの薬局でも手に入るのではないかと思います。それからコロナの関係でちょっと質問があるのですが、医師の方で全件報告だったものが途中から高齢者65歳以上或いは重症の方だけの報告になっていて件数というのがわかりづらいと思うのですが、どのように捕捉されようとしているのか教えてください。

【橋本室長】 発生届数については、医療機関から発生届を出していただくということですが、ハーススを使ってわかる数や、或いは各感染者の方が陽性者登録センターに入力していただくという形があります。そういう数を東京都が把握して毎日報告されているというところですが、実は国立市でもある程度の数は東京都経由で分かるのですが、ハッキリとした数ではないというところですが、その中でも概数になります。たぶんこのくらいの数かなというのはある程度第7波の数から推定はしております。これがあっているかはわかりませんが、もう2,000人くらいは毎月出ているのではないかと思います。

【行定会長】 補足ですが、今までハーススは個別に登録していたのですが、それは原則として65歳未満で、病気がない方はしていません。今日の発生、20代何人、30代何人というところは毎日登録する必要があるため、それでハーススの方へ載せますので、それで発表になっていると思います。でも義務ではないので抜けている場合も結構あるのではないかと思います。

【下平委員】 ありがとうございます。私は八王子に住んでいるのですが、ショートステイとか頼むときに何か閉鎖されているところが凄く多くて、実感としては重症者は少ないのですが、相当感染が広がっている気がしますがその辺はいかがでしょうか。

【橋本室長】 ここ一週間くらいはその前に比べるとかなりのスピードで感染者数が上がってきているのかなと思います。やはり電話件数なんかを見てもそう思います。国立市でもAIによる感染者のピークがお正月辺りというニュースも以前からでておりますので、年末年始に備えて相談体制の方は確保して準備をしているところです。

【葛原部長】 補足させていただきます。高齢者施設でここ一か月くらいで市内でも幾つか出始めていて、数がまとまってクラスター的になっている施設もあります。このことから高齢者にもかなりの数の感染者が見受けられる状況でございます。

【行定会長】 国立医師会で休日診療をやっているのですが、色々と理由があって今は発熱は診れないと市民の方にアナウンスしております。このような中、薬剤師会の先生方に協力いただいて抗原キットを配っていただけるという

ことで非常に助かっています。ありがとうございます。それではよろしいですか。他にありますか。それでは次の議題（３）その他に移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

【矢吹主査】 コロナ過ではありますが、保健センターでは市民の皆様の健康づくりの事業をしており、日々健康に関する事業を取り組んでいくということを目指して掲げています。その中で今年度を実施いたしました健康づくり事業につきまして報告いたします。まず、がんの後援会についてです。広く市民にがんについての知識、情報を発信することを目的に、がん征圧月間であります9月3日土曜日に「がんを知ろう、学ぼうセミナートークショー」を開催いたしました。会場の来場者は134名。当日YouTubeでオンライン配信を行いまして、オンライン視聴者は119名合計で約250名の方の参加をいただきました。参加いただいた多くの市民から大変分かり易い内容であったと感想をいただくことができました。続きましてウォーキング事業について報告いたします。新型コロナウイルス感染症が中々終息しない中で、屋外で気軽に運動ができるウォーキングが一層人気を集めた背景があり、今年度につきましては東京都が主催する大腸がん予防啓発事業であります、第13回東京健康ウォーク22の開催地として国立市が誘致されました。東京都内の市町村から700名の応募があり、秋の紅葉が色づき始めた国立市内の約8キロのコースをウォーキングをして健康づくりを図る事業を実施することができました。参加者の皆様からの感想といたしましては、国立市の街並みが素晴らしかった。楽しく歩くことができたなどのご意見を多数いただいたと東京都の担当者から報告を受けております。また本年度も国立市健康づくり推進員養成講座を実施しております。希望される市民に本講座を受講いただき日々一緒に地域の健康づくりを進めていただいております。健康づくり推進員養成講座の事業の一つとして、毎週火曜日の10時半、第4公園で実施しておりますオリジナル体操は新型コロナウイルス感染症流行以前から毎週たくさんの方に参加いただいております。市民の皆様の交流の場として大変活用していただいております。本日出席されております運審の委員の方が本日ご来場されておまして、大変感謝しております。

【行定会長】 只今の説明について質問はありますか。

【安江委員】 質問ではありませんが、直接参加している市民の声が色々入ってきておりますのでこの場でお話しさせていただきます。先ほど説明がありました火曜日10時半からのオリジナル体操は、公園で両手広げて十分距離を取り行っています。その時の市民の声が、コロナ過で外出とか外食とか前部自粛している中でこの体操に来れる火曜日は一番楽しみですという声があると、周りもうんうんとうなずいて、この火曜日の朝は楽しみなんだという声があがっています。実際今週の火曜日もそういう声を聴きました。保健センターから先日火曜日と一緒に輪の中に入って一緒に体操をしていただきました。これが市民の方にとってはとっても和めるいい機会になっているという声をたくさ

ん聴いておりますので、ここで発表させていただきました。

【行定会長】 ありがとうございます。今後もぜひ体操を続けさせていただきたいと思っております。それではその他よろしいですか。

【橋本室長】 もう1点、参考資料ということ資料を付けさせていただきました国立市健康まちづくり戦略基本方針にいたします。（1）健康まちづくり戦略の背景ということで書かせていただいております。ソーシャルインクルージョンの理念を踏まえ、今般のコロナ過とか人口減少や超高齢化社会というような課題が色々社会問題として上がってきているところです。その中でまちづくりの根幹に広義の健康であるウェルビーイングを据えて、健康、福祉分野、行っている施策・ソフト面だけではなく、施設や公園、道路というようなハード面の両面から全庁的に進めていくことが必要ではないかということで取り組んでいくところです。（2）基本方針の位置づけとしては、国立市第5期基本構想に基づいて実施していくわけですが、持続可能な総合的なまちづくりを推進したり、市民の方の幸福感の向上や定住志向の意思、国立市っていいなと思われて移住していただくという方が増えるようなことを目指していければと思っています。基本方針に基づきまして重点的な取組や評価指標を示す健康まちづくりプランを来年度、令和5年度に作成していく予定です。保健センターだけではなくて都市計画の方のマスタープランなどの関連計画と整合性を図り作成していきたいと考えています。そして（3）WHOにおける健康の定義と変遷で、健康の定義については1度は聞いたことがあるかなと思いますが、健康とはということで書いてあります。少し理想が高いところがありまして、今色々考えが進んでおり、WHOでもヘルスプロモーションというものを掲げて社会的な健康の部分とか感情面とかそういったことも健康に大きく関わってきているというところで、全体的に考えていくことで健康まちづくりのところでも整合性が取れているのではないかと書かせて頂きました。（4）広義の健康について、先ほどWHOの健康の定義の中の例文でウェルビーイングという言葉も出てくるのですが、今盛んに幸せということで色々言われているかと思います。国立でも市民の皆様にウェルビーイングを掲げていけるように頑張っていきたいというところです。（5）目指すまちの姿が書いてあります。市民一人ひとりが可能性を高め、きらりと輝けるまちということを掲げていきます。（6）目指すまちの姿の現実に向けた考え方ということで、今実際にいろいろなところで色々な施策を行っていますが、健康まちづくりの視点で検討して取り組みにその考え方を反映させていくということです。行政だけではなく支援の方や異業者の方々と連携してオールくにたちで推進して、優先的に取り組む方向性を定めて推進していきたいと思っております。その方向性ですが、今3つ掲げております。①つながり、集えるまち。これはやはり人とのつながりというのは健康に大いに関係してくるというところ、コロナ過で一層はっきりとわかってきたところです。そういった面もありますし、他世代でお互いを見守っていくというようなことの重要性が言われておりますので、まず1番にそれ

を掲げております。②楽しく喜びにあふれるウォーカブルなまち。ということで歩くことは運動することは健康につながるということはもちろんですが歩くということそれだけを言っているわけではなくて、あらゆる状況の方がいらっしやいますのであらゆる手段を活用して自由に気兼ねなく外出できるという風な意味合いでとらえていただきたく思います。道路整備とか交通環境とか公共施設等、都市づくりの方面と移動の支援というようなことで色々考えていければと思っています。③多様で豊かな食と文化を志向するまち。そういった3本柱で考えています。市民の方や関係団体からお力をいただきながら進めていきたいと思っておりますし、またそういった考えを実施した中で醸成できればというところです。庁内の担当部署、すべての部署がこのように自覚していただき進めていく。部署を縦割りではなく横断的に連携しながらいきたいということです。健康まちづくり戦略室となりましたが、主な役割としてはこういったことを、広義の健康な概念とか目指すところは庁内外に向けて普及啓発のことであるとか、全体を調整していく旗振りをしていくということを考えております。雑駁ですが基本方針骨子ということでポイントを述べさせていただきました。今年度中に方針をまとめていきたいと、今進めております

【行定会長】 ありがとうございます。それでは最後に審議会の今後の日程について説明お願いいたします。

【橋本室長】 審議会は今年度は4回を予定していたところですが、コロナウイルスの感染状況から夏場にはできませんでした。そのため今回やっと2回目の開催になりました。今後の日程ですが、感染の状況にもよりますが目安として2月の中旬ごろまでには開催したいと考えています。改めて委員の皆様にはご案内をさせていただき、開催をさせていただければと考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

【行定会長】 大体説明終わりましたが、今までのことについて聞き逃した事とか質問したいことがあればここでお願いします。

【小鷹委員】 今最後にご説明頂いた健康まちづくり戦略の基本方針を作ろうとしているという事ですが、この基本方針というのは国立市全体で取り組んでいくという位置づけでよろしいのでしょうか。国立市としての色々な施策がある中で、色々な基本方針、戦略とかを持って各部署が動いていると思うのですが、その中で健康まちづくりの位置づけがどういう風になっているのかちょっとわかりにくいので簡単にご説明頂ければと思います。

【橋本室長】 市全体で取り組んでいくということで今進めております。庁内での職員研修も進んでいて、市民の方のご意見を聴く市長と語るタウンミーティングも開催し、着々と進めさせていただいています。各部署で色々な施策があるというところで疑問をお持ちなられたというところですが、確かに色々な法律に基づき色々な部署で施策を行っています。それは変わらず行っていくのですが、その中で健康まちづくりという視点でもう少し面白いことができないか、こういう風な形で取り組んだらどうだろうか、或いは全然そういうこと

とは関係ないんじゃないかなと思われていたところがやっぱりこういう事ってウェルビーイングとか健康に結びつくのではないとかというようなことを、一人一人職員で色々考えていただけるようなことを、これからワークショップ形式などをして進めていきたいと思っています。今までやってきている施策を健康の視点で捉え直していくというところなんです。そういったことを進めつつ新しくできる施策に関しては健康、ウェルビーイングの視点を取り入れながら工夫していただくというようなことをこれから取り組んでいければと思っています。

【行定会長】 国立は障害者に優しいのが一つのスローガンに出していますので、これが二つ目のスローガンになるように大きく事業として発展していけばいいと思っています。他に質問はありますか。ないようでしたら令和4年度第2回保健センター運営審議会を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。